鹿児島県立鶴丸高等学校広報紙

好学愛知
自律敬愛
質実剛健

鶴信

第61号　H23．4．28

鹿児島県立鶴丸高等学校
〒890-8502　鹿児島市薬師二丁目1番1号
TEL 099-251-7387 FAX 099-255-3433
http://www.edupref.kagoshima.jp/sh/Tsurumaru/top.html

5月の行事予定

5		月	
1	㊐		
2	月	学年朝会	教員相互授業参観期間
3	㊋	憲法記念日	
4	㊌	みどりの日　3年学研模試	
5	㊍	こどもの日　3年学研模試	
6	金	立会演説会・生徒総会	
7	㊏		
8	㊐		
9	月	**水曜の授業**　全校朝会	
10	火	学校安全の日	
11	水	**実力考査（1日目）**　PTA総会	
12	木	**実力考査（2日目）** 耳鼻科検診(1年)　尿検査(2次)	
13	金	尿検査(2次)　避難訓練	
14	㊏		
15	㊐		
16	月	全校朝会 集団読書(3年)	教育実習
17	火	職員血液検査　チャリティバザー	
18	水	PTA総会欠席者会 職員血液検査　チャリティバザー	
19	木		
20	金		
21	㊏		
22	㊐		
23	月	学年朝会 集団読書(2年)	
24	火	交通安全教室	
25	水		
26	木		
27	金		
28	㊏	2・3年駿台模試 バスケットボール県総体会場	
29	㊐	バスケットボール県総体会場	
30	月	全校朝会　中間考査時間割発表 集団読書(1年)	
31	火		

天からの封書

校長　大平　和男

「天からの封書を開けよ」。これは、君たちが持っている「鶴言」の最初に掲げられた言葉であり、作製にあたって時の校長が選んだ言葉である。森信三によれば、人は誰も天の封書をいただいてこの世に生まれており、それにはその人がこの世に派遣せられた使命の内容が書き込まれてあるのだという。

私事で恐縮であるが、二歳の孫が寝る前に最近いつも読んでもらっている絵本がある。「はじめてのおともだち」、作者は、やましたかおるさんである。「読もうか」というと孫は「うん、よもう。いいよって いうんだよね」と言う。始めはピンと来なかったが、最近分かった。絵本の中で、公園でなかなか友だちになってと言えずにいつも独りぼっちでいる女の子が、勇気を出して始めて「いっしょに　あそぼう」と言う。その時、相手の女の子が返した言葉が「うん　いいよ」なのである。

この絵本は、山下さんが中学生の時、授業で絵本を作ろうというのがあって書いたもので、色えんぴつで丁寧に塗られたその絵本を見せてもらったが、なるほどそのまま本にしてもいいような見事な出来栄えであった。「ともだち」と題されたその作品は、十年後東京の出版社の目にとまり、文芸社刊「はじめてのおともだち」として出版され、今店頭に並んでいる。多くのお母さんが手に取り、我が子に読み聞かせていくであろう。彼女の絵本が幼い感受性を豊かに育んでいく。幼い感受性はやがて大人になり、また次の感受性を育てていく。なんと素晴らしいことであろうか。山下さんは本校の卒業生、現在鹿児島大学歯学部の学生である。

鶴丸生の持つ才能の豊かさ、無限の可能性に改めて驚く。君たちは一つ一つのことに実に熱心に取り組む。同世代の若者たちは、それを愚直と言うかも知れない。可能性が輝きを秘めているのでは、実は君たちも気づかないた君たちが、今後、どのような活躍を見せ、社会に貢献していくかを思うと楽しみでならない。

自分の可能性を豊かに伸ばせ。そのための努力と挑戦する勇気を忘れるな。若いときは自分を厳しく鍛えよ。君たちがこれから生み出す技術が、知恵が、力が、社会を変えていく。その壮大な任務のために、自らに対して厳しくあれ。そして隣人に対してゆるやかであれ。

思えばなんと天の封書を読まずに人生を終わる人の多きことよ。森信三の嘆きは、君たちには無縁であるはずだ。

新入生を迎えて

一学年主任　石谷　洋一

満開の桜に迎えられ、鶴丸高校第六十五期生の高校生活がスタートした。慣れない環境の中で試行錯誤の毎日を過ごしながら、鶴丸生としての生活を確立させようと頑張っている。教科オリエンテーションでは、質が高く進度の速い授業に対応する学習法を教授され、遠足では級友との距離を縮め、クラスとしての結束を強いものとすることができた。また、甲鶴戦では母校の勝利のためひたむきに競技する鶴丸生になったことを実感し「真の鶴丸生」への一歩を踏み出した選手と気持ちをひとつに応援することで、鶴丸生になると言えるだろう。

高校生活では、ときには真剣な議論を交わすことのできる生涯の友や、学業や部活動において、悩みを相談したり影響を与えてくれる先輩や師との出会いもあるだろう。良好な人間関係を築くことは自らを成長させるためにも大切なことである。仲間とともに学問についての理解を深め、また互いの将来について本音で語り合い、かへらざる三年に己を彫んで欲しい。鶴丸は、自らを高め努力する者を誰もが認めるところである。だからこそ恐れる必要はない。たとえ信念に基づき行動したことが失敗しようとも、その過程から貴重な経験を学び得ることができるのだから。自らの可能性を信じ、何事においても失敗を恐れず意欲的に行動する姿勢を持ち続けて欲しい。

私の前任校である福島県の高校では、震災により校舎の大半が使えなくなったため、本校と同じ八クラスの新入生は八等分された体育館内で授業を受けているそうである。そのような厳しい環境の中でも、自らの進路目標を実現するために日々研鑽を積んでいる。彼らをはじめ被災された同じ世代の人たちへの思いを自らの姿勢で示し、校是である「For Others」の精神のもと、復興を担う若い世代の牽引者となってくれると信じている。諸君に期待したい。厳しい時代になることが予想されるが、鶴丸での三年間が心の柱となり、志を同じくする友とこれからの新しい社会を築いてくれると信じている。

長く厳しい冬を越した東北の桜は、春には見事な花を咲かせる。雪の重みに耐えながら横へと枝を広げ、深みのある姿へとその形を変えていく。諸君が歩む三年の道の途上には、思い悩み立ち止まることもあるだろう。しかし、難題を克服していくことで確かな成長を遂げるとともに「真の鶴丸生」へと近づいていくことになる。被災地の桜は、枝が折れ根をおこされるなど、その厳しい環境の中でも芽をつけ、今まさに満開の時期を迎え震災で苦しむ人々の希望となっている。諸君がこれからの日本の希望の光となることを心から願いたい。

甲鶴麗華

～華麗に舞え二つの魂～

生徒会長　植之原　佳代

恵まれた天候の下、第四十一回甲鶴戦は実施された。選手宣誓でもあったように、東日本大震災で多くの方々が被災された中、この大会を実施させていただけたことにとても感謝している。

昨年の十一月に発足した「第四十一回甲鶴戦実行委員会」。この役員二十人で何度も会議を重ねてきた。他の行事とは違って、鶴丸の中だけで動いてゆくものではないので、プレッシャーが大きく、時にはつらさを感じることもあった。しかし、当日各校の盛り上がりや、閉会式でYOUNG MANを歌う姿を見て、つらさや疲れは吹き飛び、あの盛り上がりを見て、自分たちがこの大会の運営に携わったことがうそみたいに感じられた。

また、僅差での勝利もとても嬉しかった。あの勝利は鶴丸生の、隙間時間も粗末にすることなく続けてきたひたむきな努力の結果だと思う。そんな甲鶴戦の中で私は特に、野球が強く印象に残っている。

大歓声の中、フィールドでは選手九人が懸命に戦っている。そのときふとスタンドに目を移してみると、選手に選ばれなかった野球部員が応援団に負けないくらいの大きな声で応援していた。試合に出たい、その気持ちは彼らにもあったことは間違いない。しかし彼らは試合中、選手たちを心から応援していた。試合中の彼らは気持ちを切り替え、チーム内の選手争いでの「勝利」ではなく、選手たちと同じく、甲鶴戦での「勝利」を目指していたように感じられた。

「はろばろと流れて
やまぬ　みんなみの
青雲のはて」

あの応援にこめられたFOR OTHERSの精神がこれからも鶴丸に受け継がれていってほしいと強く思う。

新任の先生方着任！

本年度も定期人事異動により16名の先生方が着任されました。着任者は、次の通りです。（下段は旧任校等）

教頭	山之内伸明	指宿高校教頭
国語	立森秀行	薩摩川内市教育委員会 文化課専門主幹
国語	武富幸司	喜界高校
国語	山下明子	期限付
数学	濵島幸治	伊集院高校
数学	下之薗博文	総合教育センター 教科教育研修研究主事
理科	江口　智	岐阜県立恵那高校
理科	長野守雄	
保健体育	古里洋平	新規採用
保健体育	新村大樹	再任用
保健体育	杉元伸行	頴娃中学校
英語	森　孝志	指宿高校
英語	加治佐昭洋	加治木高校
事務主事	早瀬和俊	鹿児島中央高校
事務主事	武田洋明	田検小学校
用務員	久保健次郎	期限付

先生方よろしくお願いします。

創立記念講演会

4月19日(火)、本校の卒業生で、前鹿児島純心女子短大・女子大学副学長である濵里忠宜先生を講師にお招きし、創立記念講演会が開催された。

先生は「未見の我」という演題で、「目の前の物事や興味のある学問に本気で取り組むということが、自分という存在の根を強くする」ということや、「人の痛みを汲む」ことの大切さ、また、「代替不可能な我を大事にする」ことなど、哲学を通して生涯を見据えた上で、高校三年間の生き方を教えてくださった。本校生が、自分の新しい可能性を拓き、より魅力的な人間になることを胸に刻み込んだ講演会であった。

平成23年度大学入試結果

大学名	合格者数	大学名	合格者数
東京大学	25	京都大学	6
一橋大学	4	大阪大学	14
東京工業大学	4	広島大学	9
お茶の水女子大学	5	九州大学	37
東北大学	4	熊本大学	5
筑波大学	4	鹿児島大学	73

※国公立大医学部医学科３２名合格

〔国公立大学合計　252名〕

慶應義塾大学	18	中央大学	20
早稲田大学	33	立命館大学	27

〔私立大学合計　298名〕